

梅村又次先生追悼研究集会「雇用・農業・経済発展」

In Memorial Convention of Professor Mataji UMEMURA: Employment, Agriculture and Economic Development

数量経済史 (QEH) 研究会 The Quantitative Economic History Group

はじめに

労働経済学・農業経済学・経済史の分野で数々の重要な研究業績を残され、一橋大学経済研究所の偉業『長期経済統計』（東洋経済新報社、1965-1988年、全14巻）の完成にも多大の貢献をされた梅村又次先生（一橋大学名誉教授）が2006年12月29日に85歳で亡くなられた。1973年の発足以来、中心メンバーのお1人であられ、『日本経済史』全8巻（岩波書店、1988-90年）の編集をはじめとして多くの点で梅村先生から多大の学恩を賜ってきた数量経済史 (QEH) 研究会は、19世紀の会、一橋大学21世紀 COE プロジェクト「社会科学の統計分析拠点構築」と共催で、先生にご縁が深い一橋大学と創価大学、および労働経済学研究の関係各位に呼びかけて2007年6月16日に一橋大学神田キャンパス（学術総合センター内6階第3講義室）で梅村先生の追悼研究集会を開催した。当日には40人近くの研究者が集まり、山本有造（中部大学教授、京都大学名誉教授）の司会の下で、猪木武徳（国際日本文化研究センター教授）が労働力、尾高煌之助（一橋大学・法政大学名誉教授）が『長期経済統計』、伊藤繁（帯広畜産大学教授）が農業人口、斎藤修（一橋大学教授）が日本経済史と、梅村先生の幅広いご研究に関する報告を行い、各報告ならびに「梅村学」全体にかかわる活発な討議がなされた。以下では、質疑応答を割愛し、4報告、およびそのうちの尾高報告が言及している梅村先生の語録（尾高煌之助「梅村先生との対話」）を紹介することにした。この研究会の記録の掲載をお認め下さった創価大学経済学会、ならびに、研究会当日も参加いただき、われわれと同学会との仲介の労も取られた神立孝一教授に厚くお礼申し上げます。

（文責：大阪大学 阿部武司）